

INDEX vol.67

02 YOKOTE VISION の実現に向けて

～動き出した J-PEAKS、変革に挑む千葉大学～

「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、新たに策定された「YOKOTE VISION」。そこに込められた横手学長の想い、そして、ビジョン実現の鍵となるJ-PEAKSの全学的な取り組み、研究力強化に向けた環境整備などについて、横手学長、中島副学長、山本学長特別補佐に鼎談形式で語りあっていただきました。

06 千葉大学 卒業生インタビュー

千葉県初の女性副知事として活躍する卒業生が登場！ 県庁職員時代のエピソードや、千葉大学での学びや連携、副知事として取り組んでいきたいことなどを伺いました。

08 研究紹介 -InfoGraphics- CHIBADAI NEXT より

日本の粘膜免疫研究界において期待を集め、免疫アレルギー疾患の革新的治療法の開発に取り組む大学院医学研究院の倉島准教授の研究を紹介します。

09 TOPICS / もっと知りたい千葉大学 / CHIBA TOMO ものがたり

ちばだい
プレス CHIBADAI
PRESS
千葉大学
広報誌



web版はこちら
※バックナンバーを
ご覧いただけます

編集・発行／千葉大学 広報室

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号

TEL: 043-251-1111 (代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp

ご意見・ご感想をお寄せください

www.chiba-u.ac.jp

※誌面に記載の所属、職名、学年などは取材時のものです。

〔表紙〕

「ユニバーサルフェスティバル」の
企画や準備に動んだ学生の皆さん



毎年夏と冬に開催される「ユニバーサルフェスティバル」は、国際教育センターが主催し、留学生が千葉大学国際学生会の学生と一緒に文化紹介を行うイベントで、1995年の開始から30年目を迎えました。表紙の皆さんは、7月の実施の際、準備、当日の進行、発表を行った学生たちの一部です。留学生は「大変だったけれど、観覧くださった様々な方に、発表した地域への理解を深めていただく機会となればうれしい」と話します。今後は、学外の皆さんのご参加もお待ちしております。(撮影：西千葉キャンパス 国際教養学部棟)

ちばだい プレス CHIBADAI PRESS 千葉大学 広報誌

2025

VOL.

67

AUTUMN

特集

YOKOTE VISION の実現に向けて

～動き出した J-PEAKS、変革に挑む千葉大学～

千葉大学 卒業生インタビュー

研究紹介 -InfoGraphics- CHIBADAI NEXT より

国際交流イベントを企画する学生(詳細は裏表紙)

CHIBA UNIVERSITY

YOKOTE VISION の実現に向けて

～動き出したJ-PEAKS、変革に挑む千葉大学～

2025年4月、横手学長が千葉大学の中長期的な大学ビジョン「YOKOTE VISION」を発表しました。その実現を力強くけん引しているのが、2024年に本学での取り組みがスタートした地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)です。全学的に取り組む大学改革や研究力強化などとともに、横手学長、中島副学長、山本学長特別補佐による鼎談を通してご紹介します。



中島 裕史(なかじま・ひろし)
副学長(研究・地域中核担当)、大学院医学研究院 教授
千葉大学病院 副病院長(学術・基礎連携・人事担当)
学術研究・イノベーション推進機構(IMO)副機構長
未来医療教育研究機構 機構長



横手 幸太郎(よこて・こうたろう)
千葉大学 学長



山本 智久(やまもと・ともひさ)
学長特別補佐(イノベーション推進)
学術研究・イノベーション推進機構(IMO)総括URA/
イノベーション・マネジメント教授
未来医療教育研究機構 副機構長
株式会社千葉大学コネク ト 代表取締役社長

YOKOTE VISION

生命、環境、そして社会へ。
知の共鳴で未来を拓く千葉大学



知の国際ハブとして、
世界に冠たる
独創的な研究を推進



国際性豊かに、
個々の可能性を最大限に
引き出す教育を実践



多様性と学際性を活かし、
社会と共に
新たな価値創造に挑戦



広く人材を登用・育成し、
持続可能な経営基盤を
構築



社会に信頼され、
学生と教職員が誇れる
千葉大学を実現

ビジョン実現に向けた行動指針

1 「より良く生きる」に貢献しよう

- 「生命/いのち」「環境」「社会」をキーワードに、自身の専門性を活かして、変化を恐れず、新たな領域の開拓にチャレンジする。
- 地域社会やグローバル社会に活動の成果を還元し、個性や才能を発揮して活躍する人材を輩出することで、人々の「より良く生きる」に貢献する。

2 イノベーションを楽しもう

- 企業・団体・地域・世界の人々との共創を先導し、互いの知を高め合いながら、進取の精神でイノベーションを創出する。
- 学内においても、異なる視点や強みを尊重しつつ、専門性や職種の枠を越えて、対話と協働を促進していく。

3 大学の基盤を強化しよう

- 多様なステークホルダーの声を活かし、経営体制を強化する。
- 学生・教職員が生き生きと活躍できる環境を整備する。
- 大学のリソースを最大限活用し、世界に存在意義を示す。
- 社会に開かれた大学として、千葉大学ブランドの向上に努める。

5つの柱で中長期的な方向性を示した大学ビジョン

横手 今年4月、「YOKOTE VISION」と題した大学ビジョン「生命、環境、そして社会へ。知の共鳴で未来を拓く千葉大学」を策定しました。「つねに、より高きものをめざして」の理念に基づき、「研究」「教育」「社会貢献」「経営」「信頼」の5つの柱で中長期的な方向性を示しています。また、ビジョン実現に向けた行動指針として、「『より良く生

きる』に貢献しよう」「イノベーションを楽しもう」「大学の基盤を強化しよう」の3項目を掲げています。教職員はもちろん、学生の皆さんと共に、ぜひ一丸となって実践していきたいと思っています。

中島 5つの柱を打ち出したことで大学の進むべき方向が明確になりましたね。

横手 大学の使命は本来、「教育」と「研究」、そしてそこから生み出される「社会貢献」の3つですが、私はここに「経営」と「信頼」を加えて、5つの柱で舵取りを進めたいと考えています。「経営」は、財務的

なことだけでなく、人材マネジメントや環境づくりも大変重要です。そして、本学が社会から「信頼」されることで、教職員と学生のモチベーションや誇りにつながると考えています。

山本 現在、千葉大学が取り組むJ-PEAKSは、地域の中核大学や特定分野の研究に強みを持つ大学を対象に、強みや特色を活かした戦略的経営や環境整備を文部科学省と日本学術振興会が支援する事業です。通常の研究助成金とは異なり、経営や環境整備も包括するという意味でビジョンとも通底するものがあると感じています。

横手 大学は今、変革の時を迎えています。本学も、単なる教育・研究機関にとどまらず、未来社会の羅針盤となっていきたい。そんな思いから、これからの世界で大切なこと、千葉大学が注力すべき強み、学生や教職員が目指す姿などを熟考し、ビジョンをつくりました。これまで「飛び入学」制度、全員留学の必修化、グローバル人材育成“ENGINE”プランなど、先進的な取り組みをしてきたように、これからもJ-PEAKSを軸に、社会・世界とつながる“知”の拠点として挑戦を続けていきたいと思っています。



学生や教職員が本学に誇りを持ち、高みを目指してチャレンジできる大学を創り上げていきたいです。



柏の葉キャンパスのBIH(上)には、飲むワクチン「ムコライス」を生産する植物工場(下)やレンタルラボなどがある

J-PEAKSで注力する イノベーション・エコシステムの構築

横手 J-PEAKSの具体的な取り組みについて、山本先生から紹介していただけますか。

山本 大きく分類すると、新しい組織の立ち上げが3つ、全学をまたいだ取り組みが3つあります。まずは新組織ですが、1つめはデータ活用先端研究を支援する「データサイエンスコア(DSC)」、2つめは医学の基礎研究から臨床までを一貫してサポートする「ヒト免疫疾患治療研究・開発センター(cCHID)」そして3つめは動物実験の高度化や代替法の確立を目指す「次世代in vivo研究探索センター(cNIVR)」が設置されました。

横手 生命科学系の研究は本学が得意とするところですし、基礎研究から臨床までを包摂した環境整備が進めば、今後の創薬にもつながる可能性があるの、ここに注力できることは本学にとっても重要な意義があります。また、データサイエンスについては、2024年に本学11番目の学部として情報・データサイエンス学部を設置したことにリンクします。データサイエンスは、これからの社会で文系理系を問わず確実に必要となるので、今後の領域横断的な研究にも寄与しそうですね。

中島 私も医学研究院に所属する者としてcCHIDには大きな期待があります。一口に創薬といっても、製薬会社との共同研究や実際の創薬を進めるには一定レベルのフェーズまでは研究者が自力で進める必要があります。学内で基礎研究から臨床までをサポートするシステムが整えば可能性も広がりますし、国内外問わず優秀な若手研究者から選ばれる大学になると思います。



千葉大学初の100%子会社の株式会社千葉大学コネクトのメンバー

山本 続いて全学をまたいだ取り組みですが、1つめは本学を核としたイノベーション・エコシステムの構築、2つめが国内外の大学や研究機関との連携、3つめは若手研究者の支援体制の強化です。

中島 1つめのイノベーション・エコシステムの構築は非常に広範囲な取り組みです。そして、このエコシステムの新しいピースとして活躍を期待されているのが、山本先生が代表取締役社長を務める子会社の千葉大学コネクトですね。

山本 本学の産学連携を次のステージに進めるという経営判断のもと、お任せいただくことになりました。これまでは、企業から声がかかり、研究者自身が対応していましたが、今後は千葉大学コネクトが研究成果を企業に提案したり、各種手続きや契約など事務的なサポートもしますので、研究者はより研究に集中できるようになります。学生にとっても、企業と共同で行う実践的なプロジェクトを通じて自らのスキルが上がるというメリットがあります。

横手 産学連携は「学術研究・イノベーション推進機構(IMO)」も推進していますね。コネクトはどんな活動を始めているのでしょうか？

山本 スタッフがいろいろな場所に出向いてネットワークづくりに



千葉大学が研究力を高め、日本のPEAKS(山脈)の一つになる…そんな未来にワクワクします。



カナダの大学と開催したアントレプレナーシップの教育プログラムでは、学生たちが万博会場で発表した

励んでいます。企業はもちろんですが、自治体、金融機関やベンチャーキャピタルとも話をし、どんな経路でも研究と社会をつなぐことができるパイプ役として動いています。また、大学内での研究開発を希望する企業の受け入れをサポートしたり、社内リカレント講習に大学教員を招きたいといった企業の窓口を務めたり、様々な形で産学連携のハブになることがコネクトの役割だと思っています。

アントレプレナーシップセンター、 柏の葉の新拠点「BIH」の活用に期待

横手 今年5月に柏の葉キャンパスに設置したBIH(Biohealth open Innovation Hub)もエコシステムの一つの要素ですね。

山本 先ほど触れた企業の受け入れを行っているのがBIHです。レンタルラボ機能があって、企業が社内で実際の開発に入る前の研究に取り組めるようになっています。

中島 BIHには植物工場もあり、本学独自のコメ型ワクチン「ムコライス」の生産も行われていますし、農業の研究開発をしたい企業に活用いただきたいですね。

山本 レンタルラボへの入居は順調に進んでいます。将来的には各キャンパスの既存施設も活用して、多くの企業のプロジェクトを形にしていければと思います。

横手 今年4月に設立された本学アントレプレナーシップセンターもJ-PEAKSのエコシステム構築の取り組みの一環ですね。

山本 実際のスタートアップ支援については学内の支援組織「スタートアップ・ラボ」が引き続き担当し、アントレプレナーシップセンターでは起業家教育を担当しています。起業家教育というのは、起業だけが目的ではなく、体験を通して考え方を養い価値観を築いていくことも重要です。起業家精神、まさにアントレプレナーシップを持った人材は世の中で求められているので、育成の面でも重要な位置づけだと思っています。

横手 スタートアップ・ラボもすでに多くの実績がありますし、実践と教育の両輪でアントレプレナーシップを伸ばしていけるのは良い取り組みだと思います。

リサーチアドミニストレーター(URA)の 増員などで研究力の強化へ

横手 若手研究者の育成や支援体制も充実させていきたいですね。

中島 リサーチアドミニストレーター(URA)が研究支援や研究活動の戦略立案などを担当するマネジメント専門職として活躍しています。産学連携はもちろん、知的財産や研究提案など、研究と社会ニーズを正しく評価したうえで研究者と社会を橋渡しすることが彼らの役割ですが、サポート役から徐々に意思決定の議論にも参加するようになっています。URAが柔軟に活躍してくれることでスムーズな情報共有が行われ、研究者と事務担当者との連携も強くなってき

たと感じています。

山本 J-PEAKSに採択されてから、URAを増員でき、仕事の幅も広がっています。現在は今後に向けて、URAの育成やキャリアアップ、事務職員からURAへキャリア転換できるなどの仕組みづくりを進めているところです。プレーヤーである研究者だけでなく、URAや学生、職員がその研究やプロジェクトが社会に届く面白さを肌で感じてほしいです。みんなが一丸となって一つの研究そして本学を高めあっていけたらと強く感じています。

新たなシーズを伸ばして 世界に冠たる大学へ

中島 J-PEAKSは研究大学の強化を国が後押しするもので、ここに採択されたということはそれだけ大きな役割を期待されているということです。千葉大学が大きく変わり羽ばたこうとしていることを、学内外の様々な方に知っていただくことが、本学のブランド力向上にもなりますし、ビジョンの「経営」や「信頼」の実現にもつながっていくと思います。



イノベーションの創出の場として選ばれる大学になる。これが10年後の目標です。

山本 J-PEAKSの使命は、10年後も成長する大学として学生、研究者、社会から選ばれる存在であり続けるための循環の仕組みづくりだと思っています。存在感のある研究をすれば社会実装も実現するし、中島先生がおっしゃったブランド力が向上すれば、学生も研究者も集まってきます。本学は11学部を擁する総合大学なので、1つの研究から新たなシーズやイノベーションが生まれる可能性も高いと思います。こうしたエコシステムづくりに携われてうれしく思っています。

中島 J-PEAKSは、採択された25の大学が盛んに相互視察や情報共有を行っていますね。ただ競うだけでなく、優れた点を共有して日本全体の研究力を高め、千葉大学をはじめ、いくつものPEAKS(山脈)を作っていくことにワクワクしています。

横手 本学には原石がまだまだ眠っていると思います。11学部を横断的につなぐことで新たな化学反応を起こしたり、J-PEAKSの活動を通じて新しい種を見つけて伸ばしたりしていきたいと改めて感じました。千葉大学は昨年75周年を迎えましたが、次の100年に向けて、中心にあるのは「人」です。学生も教職員も、一人一人が自らの可能性を存分に発揮し、生命を輝かせ、より良く生きる環境を整えることが、人と社会を豊かにする——。そんな千葉大学を皆さまと共に創っていききたいと思います。

千葉県初の女性副知事に就任した高梨みちえさん。
県庁職員時代の様々な経験、副知事就任への想い、
千葉大学での学びやつながり、千葉大生に向けた
メッセージなどを語っていただきました。

「男女雇用機会均等法」施行 2 年目 女性でも活躍できる千葉県庁へ

——就職先として千葉県庁を志望した理由を教えてください。

高梨 「仕事を通して、社会とつながっている気がする」。私が小学生のときの母の言葉で、社会の役に立つ仕事をしたいと考えようになったきっかけです。母は芯の強い女性ではありませんでしたが、元々はどちらかといえば内向的な性格でした。洋裁の内職をしていましたが、近隣の洋品店に依頼されて仕入れや販売を担当するようになったことをきっかけに、口下手だった母がお客様に「こちらの洋服がお似合いですよ」と提案するようになり、流行を意識した仕入れを行うなど積極的な性格に。そんなときに発した言葉だったので子ども心に

とても印象に残りました。そして、大学で就職活動を始めた頃、1985年に男女雇用機会均等法が成立したものの、施行1年目の1986年に就職した一つ上の先輩たちが就職説明会で女子社員が活躍できる企業風土はまだまだ醸成されていないと話していたことから、公務員なら男女関係なく働くことができ、社会の役に立てるのではないかと考え千葉県庁を選びました。

——県庁職員時代のエピソードを教えてください。

高梨 最初は、税金の滞納整理を行う部署に配属されました。上司がすごく尊敬できる方で「わからないことがあったら、立ち上がって大声で聞きなさい。県庁は組織で仕事をしているのだから、どこから必ず答えが返ってくる」と言われ、仕事はチームで行うことを学びました。その後、選挙管理委

員会をはじめ様々な部署を経験し、異動のたびに転職したかのように仕事内容が変わり大変でしたが、それ以上に新しいことに挑戦できることに面白みを感じていました。

千葉大学での学びとつながりが 様々なシーンで活かされる

——千葉大学時代での学びや経験が仕事に役立ったことはありますか。

高梨 入庁20年目に法務担当に異動となり、弁護士と連携して書面を作成することになりました。このとき、法経学部（現・法政経学部）法学科で憲法、行政法、民法を一通り学んでいたことが役立ちました。ほかにも東京大学を退官されて千葉大学に来られた刑法の内藤謙先生のゼミも参考になり、学生時代にとにかく勉強を頑張っていたことを思い出しました。また、卒業後

も行政法の先生に相談に伺ったこともありますし、依頼されて法科大学院生に対して地方における訴訟について講義を行ったこともあります。

——コロナ禍では特命の担当部長として対応されたそうですね。

高梨 日本国内で新型コロナウイルスの感染者が初めて確認されたのは2020年1月でした。感染拡大とともに行政需要が大幅に高まり、いつ終わるかわからない対応に追われる中、2021年度に新型コロナ対策を行う政策調整担当部長という職が健康福祉部内に設けられ、私が任命されました。ワクチン接種の態勢整備に取り組み、千葉大学病院の当時病院長だった横手学長を訪ね、医師や看護師の協力をお願いしました。横手学長とは初対面でしたが、穏やかな口調で真摯に対応していただい

母の働く姿が私の仕事の原風景。
社会とつながる、役に立つことを、これからも志していききたい

千葉県副知事

高梨みちえさん

千葉大学 卒業生インタビュー

Chiba Alumni
Interview 34

たことを覚えています。その後もオンラインで行われた対策会議に参加していただき県内の病床確保などにもご協力いただきました。新型コロナ対策に取り組んだ日々を振り返ってみると、誰も経験したことのない状況で思いつくこと全てを職員が一丸となって対応していく、まさに県庁の組織力の凄さを感じました。また、多くの民間企業の方に協力を仰ぐ中で、直接お目にかかって説明を尽くすことの大切さを知りました。

経済活性化や、少子化対策など 次世代を大切にしたい社会を目指したい

——2025年4月に千葉県副知事に就任されましたが、どのような想いでしょうか。

高梨 副知事のお話をいただいたとき、果たして自分にできるかということを考えま

した。次に、これまで私が管理職として部下に内示を出す際、神戸女学院大学名誉教授の内田樹先生の「キャリアのドアにはドアノブがついていない」という言葉とともに「ドアが開いたのなら飛び込むしかない」と伝えていたこともあり、今度は私の番だと心を決め、さらに千葉県初の女性副知事に自分が就任することで後進の道を開くことにつながると考えお受けしました。副知事になり、仕事自体は総務部長時代と大きく変わってはいませんが、所掌範囲が広がった分、いろいろなことを意識するようになりました。今後は、経済を安定させ少子化対策に取り組み、次世代を大切にしたい社会を目指し、それに取り組む県職員が働きやすい環境づくりを行っていきたいと考えています。

——最後に、学生へのメッセージをお願いします。

高梨 実は私の娘も千葉大学法政経学部で、卒業するとき「一生、学生でいたい」というくらい学生生活を謳歌していました。そんな姿を見ていて、大学時代は自分がしたいことに時間を自由に使える期間だなとあらためて感じました。ですので、学生の皆さんには、すぐに役立たないことでも自分がやりたいことに挑戦してほしい。「やりたがりで、知りがりで、言いたがりで、心も体もアグレッシブ」でいてほしいと思います。そしてもう一つ。できれば紙の新聞を読んでください。自分とは異なる視点や関心を持った編集者がフィルターをかけて限られた紙面の中に落とし込んだ内容から情報収集する。特に論説委員がまとめ

たコラムは筆者の生の声が伝わってきます。そこに共感するもよし、違和感を感じるもよし、多様な考え方があることを知ることが大切だと考えています。



高梨 みちえ (たかなし みちえ)
千葉県副知事。千葉大学法経学部法学科卒業。
1987年に千葉県庁へ入庁。以来、数多くの部署でキャリアを重ね、2021年には特命の政策調整担当部長に任命され、ワクチン接種の態勢整備など新型コロナ対策に尽力。その後、2022年に健康福祉部長、2024年に総務部長を歴任し、2025年3月に退職。同年4月から、千葉県副知事となる。



千葉大学 国際高等研究基幹／
大学院医学研究院 イノベーション医学 准教授

くらしま ようすけ
倉島 洋介

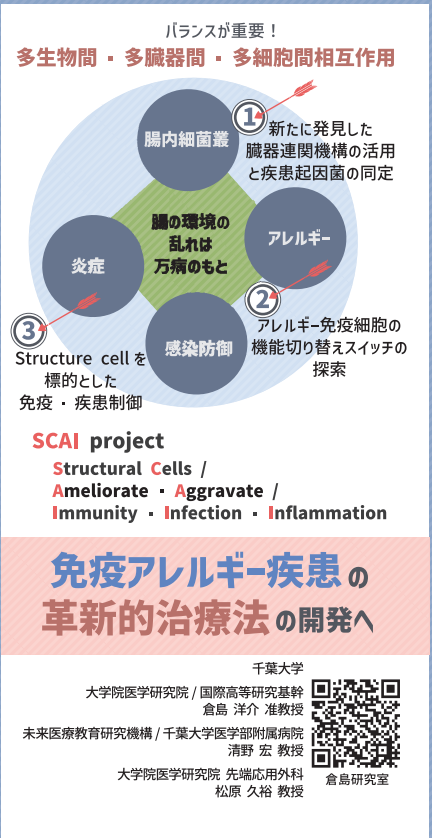
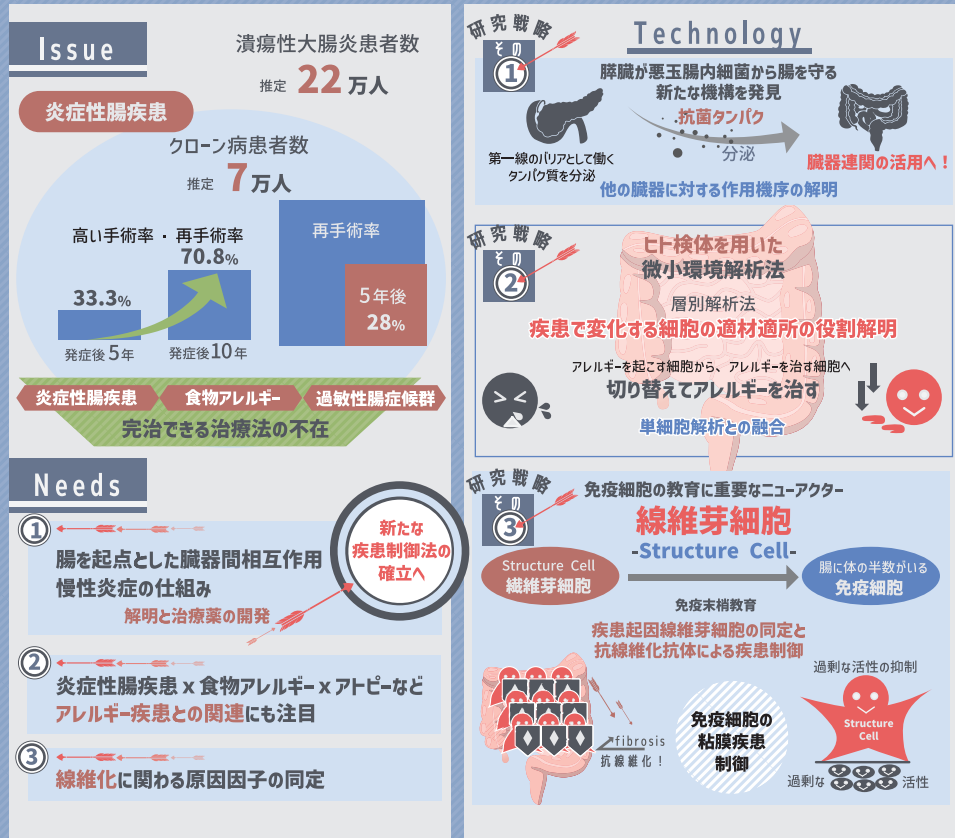


「腸」は全身の免疫の調整役でもあります。腸管免疫についての研究を通じて、臓器不全を導く線維化やアレルギーなどの疾患治療の確立を目指した取り組みを進めています。さらに、近年は腸のバリアを超え遠隔臓器に感染する腸内細菌が「万病の元」として捉えられており、病原性共生菌の制御法の確立に向けてコツコツと免疫研究を続けています。“挑戦”と“発見”に満ちた腸管粘膜免疫研究を、時にはスイーツを囲んで語り合う、そんなアットホームな倉島研究室で共に切り拓きましょう。

国際的なトップジャーナルに発表した成果を皮切りに、国内でも数々の賞を受賞し、日本の粘膜免疫研究界で期待を集める倉島洋介准教授。外界の異物から腸を守っている一方で、体に害をなすこともある粘膜免疫の謎に取り組む倉島准教授の研究を紹介します。

免疫系を制御するニューアクターの発見

免疫アレルギー-疾患制御への3本の矢



倉島先生って
こんなひと！

学生をやる気にさせてくれます！
研究ミーティングでは幅広い視点からの
提案にいつも刺激を受けています。

研究に熱心で、常に新しい発見
を目指して取り組まれています。

倉島先生の学生さん
に伺いました！



倉島先生

趣味は格闘技、
映画、写真です！

研究の要点を鋭く捉え、ユーモアもあり
ながら忍耐強く学生を導き、研究室を前
向きな雰囲気にはってくださいます。

気さくでとても親しみやすいです！
研究においても、積極的に臨床と基
礎をつなぐ発想豊かな先生です。

CHIBADAI NEXT



AWARD

大学院医学研究院の甲賀かをり教授が内閣府「令和7年度女性のチャレンジ賞」を受賞

この賞は、様々な分野で活躍し、挑戦する女性を応援するために内閣府が実施しているものです。

甲賀教授は産婦人科医としての活躍に加え、2012年には「日本子宮内膜症啓発会議」を設立し、一般の方向けの啓発活動や政策提言に力を注いできました。



甲賀かをり教授

また、外科系分野における若手医師の育成、新技術の開発にも尽力され、女性医師のロールモデルとしても高く評価されています。

受賞にあたり甲賀教授は「誰もが活躍できる世界の実現を目指し、今後も『チャレンジ』を続けてまいります」と語っています。

INFORMATION

トレンドマイクロ株式会社と連携協定を締結

千葉大学は、高度なサイバーセキュリティ技術を有し、セキュリティ人材の育成を支援するトレンドマイクロ株式会社と、学術・文化・経済を振興し、広く社会へ貢献することを目的として、2025年5月13日付けで連携協定を締結しました。



左から、トレンドマイクロ株式会社花岡様、稲田様、大三川取締役副社長、千葉大学横手学長、小澤理事、鈴木教授

今後、幅広い分野で緊密な協力関係を築き、学術・文化の振興と経済の発展を実現し、情報セキュリティ人材の育成およびサイバーセキュリティのリテラシー向上を図る取り組みをより一層推進していきます。

卒業生
MESSAGE

これからも社内外から存続を望まれる会社でありたい 権田金属工業株式会社 権田 有紀子さん

千葉大学の思い出

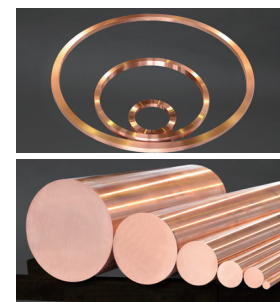
昔から読書が好きで、文学部へ進学しました。

在学中は先生や学友に恵まれ、飲み会や旅行など、楽しい思い出がたくさんできました。また、困難な状況下でも、常に前向きに取り組む力が養われたと感じます。これらの経験は、今の私という人間を構築する上でとても大切で、かけがえのない学びを得ることができました。

現在の仕事について

当社は10円玉の素材となる純銅や、5円玉の素材となる黄銅を扱う伸銅品メーカーです。製品は発電所や変電所、半導体製造装置、自動車などに使用され、電車のモーター部品では国内で6〜7割のシェアを占めています。

このように説明してもあまりイメージが湧かないかもしれませんが、だからこそ、この仕事には面白



製品



竣工した商業施設のオープニングイベントにて

さがあります。誰もが意識してくれる訳ではないけれど、縁の下の力持ちとして人々の生活を支える。職人気質などところに、やり甲斐を感じています。

学生へのメッセージ

私は経営について右も左もわからないままに、先代である父の急逝により社長の立場を引き継ぎました。その中で思うのは、「何事もやってみれば意外と何とかなる」ということです。逆に、やってみなければ何も得ることはできません。

皆さんも未経験の世界に踏み出さなくてはならない時が来るかもしれません。そんな時は負い過ぎず、まずは「やってみる」の精神で飛び込んでみてほしいです。尻込みして何も始められないのは勿体ない。進むことをやめさえしなければ、結果はきっとついてきます。

権田金属工業株式会社

企業HP <https://gondametal.jp/>



1918年の創業以来、変化が激しい社会情勢のなかで時代のニーズを的確にとらえ、量より質を追求しながら事業を続けてまいりました。“良品共栄”を企業理念として、良品の提供により社会の発展に貢献し、お客様・仕入先様・地域の皆さまとともに繁栄し続けることを目指しています。



権田 有紀子(ごんだ・ゆきこ) 代表取締役社長
2014年 文学部卒業後、非鉄金属の大手商社に入社
2018年 権田金属工業に入社。営業開発部長、常務を経て、2022年12月に同社の代表取締役社長に就任



INFORMATION

横手学長らがタイ・キングモンクット工科大学トンプリ校ほかを視察

2025年3月28日、横手学長らが大学間協定校のキングモンクット工科大学トンプリ校(タイ王国)の施設内に本学と共同で設置した「ソーシャル・デザイン・インスティテュート」を視察し、その後、両大学の教職員や学生が、設置後の活動報告や今後の交流について意見交換を行いました。また、視察前日には、本学卒業生ら20名がタイ全土から集まり、タイ校友会を開催しました。今後はこれらのネットワークを活かし、学際的研究や国際教育の更なる強化につなげていきます。



キングモンクット工科大学トンプリ校および本学関係者(前列は双方の学生たち)

INFORMATION

「発酵文化」で世界を変える！グローバル・プログラムを開催

アントレプレナーシップセンターは、5月下旬にトロント・メトロポリタン大学と千葉大学の学生を対象としたアントレプレナーシップ教育プログラムを開催しました。

プログラムのテーマは「日本の発酵文化」。老舗蔵元とタッグを組み、学生たちは「発酵」を世界市場で通用するビジネスにすべく、熱心に議論を交わしました。顧客の具体的なイメージを描いたり、ビジネスの仮説を立てたりしながら、グループでアイデアを練り上げました。



大阪・関西万博のカナダパビリオンにて記念写真

最終日は大阪・関西万博を舞台とし、各グループが発表を行い、大きな盛り上がりを見せました。

EVENT

連続テレビ小説『あんぱん』パネル展 in 千葉市を開催

西千葉キャンパス 松韻会館にて、2025年5月19日～30日にNHKのご協力のもと、連続テレビ小説『あんぱん』に関連したパネル展を開催しました。

「アンパンマン」を生み出した、やなせたかし氏は、本学工学部の前身である東京高等工芸学校のご出身であり、本学とも深いつながりがあります。会場へは連日100人を超える来場者が訪れ、在学生や地域の方々など約1,400名が展示を楽しみました。



等身大パネルなどを展示

もっと知りたい千葉大学

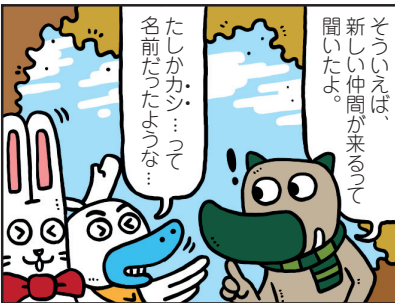
洋式生活のモデルを提供した東京高等工芸学校の教員たち

東京高等工芸学校(現・工学部)は、やなせたかし氏が学んだ工芸図案科だけでなく、木材工芸科も個性的な存在でした。畳からイス・テーブル生活への転換、台所の合理的空間への改良などを持論としていた木曾惣一(こぐれじょういち)教授は、1924年の自邸新築に際し、新時代に相応しい間取りや室内装飾を備えた洋式スタイルを実践します。他の教員もそれにならない、同様な自邸を建てていきました。(大学院国際学術研究院 見城悌治)



木曾氏の子どもの部屋の写真(出典:「松戸市教育委員会編『東京高等工芸学校の歩み(1)』」)

CHIBA TOMO ものがたり 20時限



CHIBA TOMO とは…
2019年に千葉大学に誕生した、各キャンパスをかたどったマスコット、うさぎの「ニシ」、かもの「イノ」、さいの「マツ」バクの「スミ」の4人組。そこに…

しば犬の「カシ」が加わりました!



KASHI
CHIBA TOMO

マイペースな性格で、めずらしい植物を見つけると、つい寄り道してしまうことも…。顔は柏の葉キャンパスの形をしている。

これからよろしくね



千葉大学看護学部創立50周年記念事業ご寄付のお願い

千葉大学看護学部は、1975年度に国立大学唯一の看護学部として設置され2025年度に創立50周年を迎えました。50年間で3,961名の卒業生を輩出し、多くの人材が国内外で広く活躍しています。

このたび同窓会と協力し、皆さまのご厚情とご支援に感謝するとともに未来の発展と次世代リーダーの育成に寄与するため、記念式典・講演会、記念誌および記念品制作などを含む各種記念事業を実施いたします。

改めて皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大学院看護学研究院長・研究科長・学部長 増島 麻里子

● 記念事業日時

2025年12月14日(日)

記念式典 14:00～16:30 みのはな記念講堂
記念講演会
記念祝賀会 18:00～ ロイヤルバインズホテル千葉



▲詳細はこちら

● ご寄付のお願い

50周年記念事業の実施にあたり皆さまにご寄付をお願いしております。看護学部学生および教職員の教育研究環境を充実させていくためにもぜひご検討ください。



▲ご寄付はこちらから

● 看護学部創立50周年記念事業へのご支援に感謝して

謝 意	個 人	法 人
看護学部創立 50 周年記念誌(電子ブック)・記念品の贈呈	1 万円～	-
看護学部創立 50 周年記念誌(冊子)・記念品の贈呈	2 万円～	-
看護学部創立 50 周年記念誌への広告掲載と記念誌(冊子)の贈呈	-	10 万円～
千葉大学けやき会館の銘板にご芳名を掲載	10 万円～	50 万円～

● 税制上の優遇措置

(個人) 寄付金が 2,000 円を超える場合は、確定申告を行うことにより税制上の優遇措置を受けることができます。
(法人) 全額損金算入が可能です。

千葉大学基金寄附者銘板のご紹介

ご寄付への感謝の気持ちを込めて、累計寄付金額に応じて芳名板の掲示をさせていただきます。銘板は千葉大学西千葉キャンパスけやき会館エントランスホールに掲示しております。

謝 意	個 人	法 人
銘板の掲示	10 万円～	50 万円～
お名前を HP に掲載	1 万円～	3 万円～



▲千葉大学基金HPへのご芳名掲載一覧



千葉大学けやき会館の千葉大学基金寄附者銘板

お問い合わせ先 **千葉大学基金室**

メー ル kikin@office.chiba-u.jp

☎ 043-290-2014

ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

ホームページ <https://kikin.chiba-u.ac.jp>

千葉大学基金

住 所 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

